

創造的実践を通じた性能的建築防災計画の確立・普及・発展への先導的業績

正会員 吉田克之君

建築防災計画は、歴史上比較的に新しい分野であり、意匠・構造・設備といった在来のジャンルを超えた設計技術である。本業績の対象者は、建築防災の専門家として1981年の建築防災計画評定制度の開始に始まり、2000年の建築基準法防火規定の性能規定化に至るまで、日本の性能的建築防災計画の確立に先導的な役割を果たすとともに、その普及・発展に貢献し、さらに、その技術を創造的に実践することにより、多くの優れた建築物の創出を可能にした。

この業績において、特筆すべき点は以下のとおりである。

(1) 性能的建築防災計画の基本的枠組の確立の先導

性能的建築防災計画の創造的実践を通して、従来の仕様規定による防災設計では実現不可能であった高層複合施設である有楽町マリオンおよび大型ドームである東京ドームを実現させ、この種の建築物の性能的建築防災計画の基本的枠組の確立を先導した。

(2) 性能的建築防災計画の利点を活かす設計手法・技術の開発

高層事務所ビルに採用されている空調換気兼用排煙システム、大空間の防災技術として採用されている大空間防災システム、避難経路の動線計画に採用されているマルチエージェント歩行者シミュレータなど、一般的な手法として広く普及した設計手法・技術を開発した。

(3) 高度な防災計画により革新的デザインの実現

大館樹海ドーム（芸術選奨文部大臣賞、日本芸術院賞）、プラダブティック青山店（日本建築学会賞（作品））、新国立劇場（日本建築学会賞（作品））、メゾン・エルメスをはじめとする多くの建築の設計に際して、防災計画の責任者として独創的な発想により性能的防災計画の手法を縦横に駆使し、革新的な建築作品のデザイン・価値・質の実現を可能にした。

(4) 性能的避難計画の普及に資する避難安全性予測手法の研究開発と啓発活動

1970年代から設計実務に携わりながら避難問題に取り組み、建築物の防災計画書の作成に必要な避難計算における平易な図式解法を考案し（5,000件に及ぶ建築物に適用されている）、明快な防災計画の考え方の普及に貢献した。また、設計者等を対象とした10編に及ぶ著書（いずれも共著）の執筆、特殊建築物等の定期調査資格講習（日本建築防災協会）のテキストを作成し多年に亘り同講習の講師を担当する等、性能的避難計画の技術を広く普及・啓発する活動を行った。

以上のように、性能的建築防災計画の確立・普及・発展と、それに基づく優れた建築物の実現に寄与した業績は、本業績の対象者が組織に所属し仕事の機会に恵まれた故もあるが、何よりも建築防災の専門家としての個人の卓越した創造力と実行力、さらには長年の努力によるところが大であり、個人の業績として高く評価できる。

よって、ここに日本建築学会賞を贈るものである。